

1969年

中ソが珍宝島で武力衝突、アメリカのアポロ十一号で人類が初めて月面に第一歩を印した。政府が提出しようとした「出入国管理法」「外国人学校法案」「旅券法改正案」



協会は、中国はじめ各国人民との往来を妨げる「出入国管理法」「旅券法の一部改正案」に反対し、その廃案を要求する声明を発表。法務委員会の高橋英吉委員長(左端)に声明を手渡す中島健蔵理事長(右三)、白石凡、千田是也(右一、右二)、伊藤武雄(左手前)各常任理事

——一九六九年六月十七日 東京

を「中国敵視三法案」として、日中間係団体は協力して国会工程阻止運動を展開した。中国では「文革」がいよいよ



進行中の文化大革命の実状を視察するため、日中文化交流協会代表团が訪中した。北京で丁西林対外友協副会長(右)の歓迎を受ける宮川寅雄団長

——1969年11月



9月、「阿Q外伝」を文学座が上演した。舞台模型を前に打ち合わせをする(右から)木村光一(演出)、北村和夫(阿Q)、宮本研(脚本)、杉村春子(秋瑾の母)、粟津潔(美術)の諸氏。文学座が中国の芝居を上演するのはこれが初めて

よ全土に広がり、文化交流も甚大な影響を受けざるを得なかった。この年、当協会から訪中した代表团はただ一つ



であった。
◎一九六九年の主な交流
◎2月 長編記録映画「日本解放戦線・三里塚の夏」(小川プロダクション製作)の中国語版を製作し中国へ贈る。

〈右〉2月、記録映画『三里塚の夏』中国へ新東京国際空港建設に反対する三里塚の農民を描いた同記録映画が上映され大きな反響を呼んだ。協会は、製作者小川紳介氏の協力を得て中国語版を製作し、中国へ贈った

- ◎5月 千葉・三里塚での「中華人民共和国写真展・物産展」(協会後援) 開幕式で中島健蔵理事長があいさつ。
- ◎6月 中島健蔵理事長は、常任理事会で決議された「出入国管理法」「旅券法の一部改正案」に反対しその廃案を要求する声明を持って関係方面に申し入れた。(八月に廃案となる)
- ◎9月 東京で中国映画の会。「中国共産党九全大会の記録」「新ツアアの反中国暴挙」を上映。
- ◎11月 当協会の宮川寅雄常任理事、白土吾夫常任理事事務局長、菅沼正久本州大学助教授ら諸氏が訪中。

一九六九年前後に、日本の日中友好交流を具体的に行なっている団体に意見の分岐が現れた。武闘も行なわれたが、当協会は極力これに巻き込まれないよう注意し、両派の団結を促した。事務局では、交流の空白を利用して、「文革」とは、毛沢東思想とは等について、また、日中間の近現代史について学習を行なう日々であった。(九十九)